

動物看護師を目指す専門学生による 動物介在禁煙推進活動

大阪コミュニケーションアート専門学校

動物看護師専攻 2年

西本奈穂 本田愛

他 動物介在禁煙推進委員会25名

はじめに

2003年5月 国民健康増進法 施行

2004年2月 OCA学内にて禁煙教育講演

2006年~2007年

動物看護師専攻・学生が禁煙推進活動を実施

2007年2月 みやこ禁煙学会にて活動報告

2007年11月 動物臨床医学会にて研究活動報告

2008年6月 日本禁煙学会後援による活動を開始

目的

動物に対して

動物の福祉、QOLの向上

飼育者に対して

禁煙や減煙、分煙の促進

動物介在禁煙活動の普及

学生自身に対して

人とのコミュニケーション能力の向上

人に何かを伝えることの実践的練習

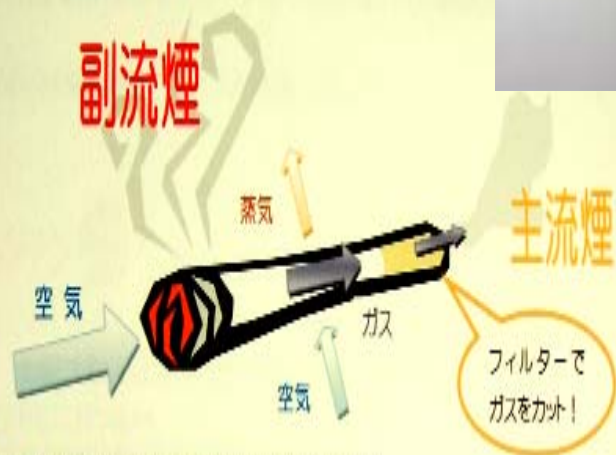
対象

- 禁煙推進指導の対象として
動物飼育者で、
動物関連業種に携わっていない喫煙者
70名
- 禁煙推進指導実習の対象者
本校動物看護師専攻学生 78名

方法

- 2008年夏季休暇中に禁煙推進活動実習のために『知識のワクチン』と名付けた禁煙の為の参考資料を作成。喫煙者に示し、『動物の前での禁煙』指導を実施。
指導体験を経過報告レポートにまとめ、作成した参考資料と指導経過報告レポートを回収し、評価表を用いて効果の検証を行った。

『知識のワクチン』と名付けた 参考資料の例



主流煙:タバコ自体を通過して喫煙者の口腔に達する煙

副流煙:タバコの点火部から立ち昇る紫煙

タバコに含まれる有害物質の比較

	主流煙	副流煙	有害作用
ニコチン	1	1.8	依存性薬物
タール	1	2.1	発ガン物質
一酸化炭素	1	4.7	酸素欠乏状態
カドミウム	1	3.6	腎障害
ベンツピレン	1	3.7	発ガン物質
ベンゼン	1	10	発ガン物質
アンモニア	1	46	肝障害
ホルムアルデヒド	1	50	目・鼻、気道の刺激
ニトロソアミン	1	56	発ガン物質

参考:厚生省「禁煙と健康」

評価表

レポートを作成した人の氏名					レポートを評価した人の氏名
対象者					
性別	8項目聞けてる	6～7項目聞けてる	3～5項目聞けてる	1～2項目聞けてる	0項目
年齢					
職業					
喫煙歴					
1日の喫煙本数					
飼育動物の有無					
動物への副流煙の暴露状況					
選んだ理由					
内容					
対象者にあった資料を作成している	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
ペットへの影響を分かりやすく書けている	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
タバコの有害項目について	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
絵・写真・表・グラフを書いている	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
裏付けされた情報を使っている	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
資料の要約					
具体的な禁煙方法を書いている	良く書いている	やや書けている	どちらでもない	あまり書けていない	全く書けていない
結果	変化なし	減煙	分煙	禁煙	認識のみ
自分への効果について	良く書いている	やや書けている	どちらでもない	あまり書けていない	全く書けていない
今後の喫煙について	良く書いている	やや書けている	どちらでもない	あまり書けていない	全く書けていない

対象者(5段階評価)

性別

年齢

職業

喫煙歴

1日の喫煙本数

飼育動物の有無

動物への副流煙の暴露状況

選んだ理由

内容と結果(5段階評価)

内容

対象者にあった資料を作成している
ペットへの影響を分かりやすく書けている
タバコの有害項目について
絵・写真・表・グラフを書いている
裏付けされた情報を使っている
資料の要約
具体的な禁煙方法を書いている

結果

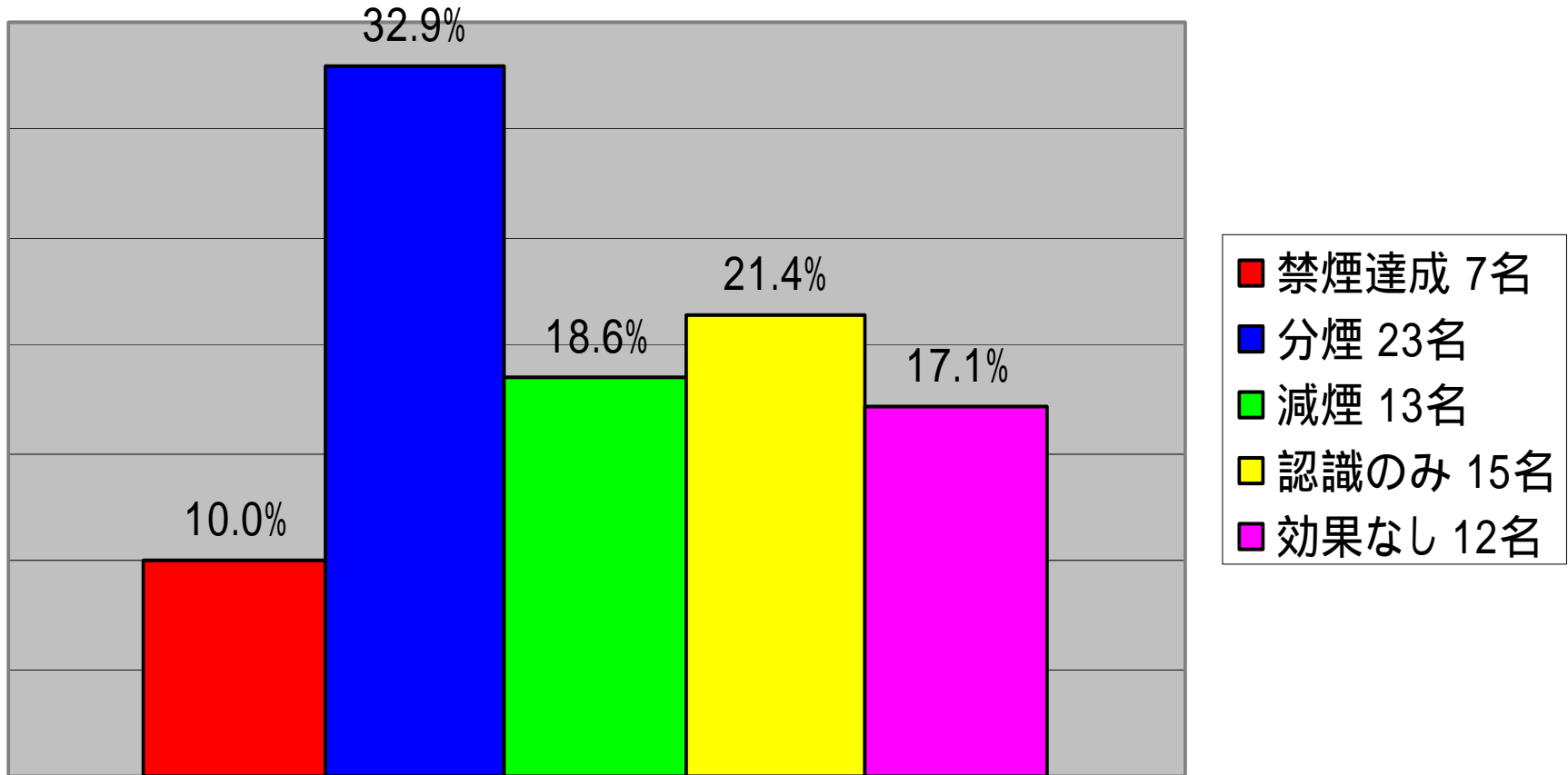
対象者への効果について(禁煙・分煙・減煙など)
自分への効果について
今後の課題について

結果

- 禁煙推進指導を受けた人

総数	70名	
<u>禁煙達成</u>	<u>7名</u>	<u>10.0%</u>
分煙	23名	32.9%
減煙	13名	18.6%
認識のみ	15名	21.4%
効果なし	12名	17.1%

禁煙推進指導を受けた人の効果



結果

- 禁煙推進指導活動の実習者

〔活動への参加率〕

学生数78名中 71名 91.0%

〔自己への効果認識〕

認識あり 50名 70.4%

どちらでもない 13名 18.3%

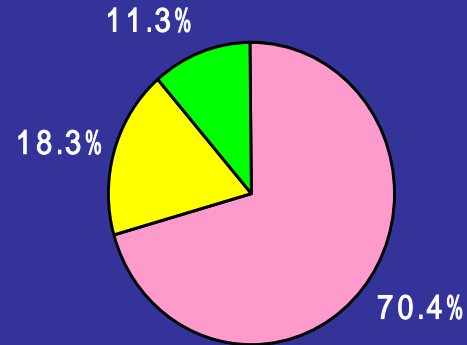
認識なし 8名 11.3%

〔動物へのタバコの害の記載〕

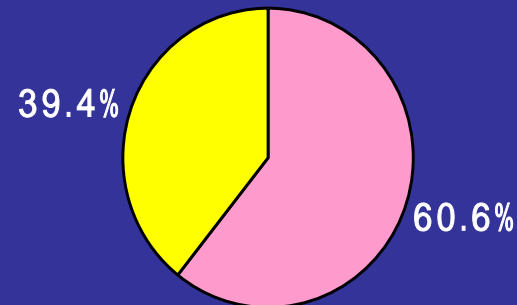
記載あり 43名 60.6%

記載なし 28名 39.4%

自己への認識効果



動物へのタバコの害の記載



結果

〔対象者に配慮した資料の作成〕

配慮あり	48名	67.6%
配慮なし	23名	32.4%

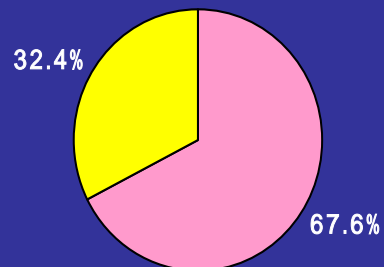
〔今後の課題の記載〕

記入あり	54名	76.1%
記入なし	17名	23.9%

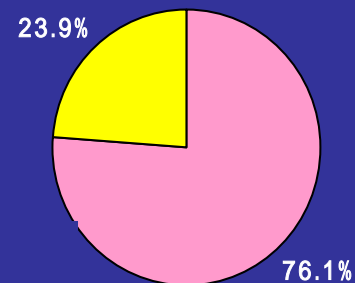
〔丁寧な資料の作成〕

している	43名	60.6%
していない	28名	39.4%

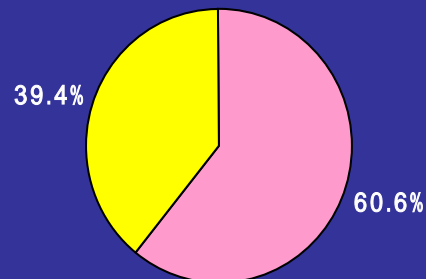
対象者に配慮した資料作成



今後の課題の記載



丁寧な資料の作成



考察

〔禁煙推進指導を受けた人について〕

対象者70名中、43名61.4%に禁煙や分煙、減煙といった禁煙推進活動の効果がみられた。これにより対象者が飼育している動物の福祉やQOLの向上ができたと考えられる。

考察

〔活動の自己への効果認識〕

指導者として、受動喫煙の被害を再認識し、教えることの難しさを体験した。

〔動物への害の記載〕

写真やグラフ、図を用いて視覚的に訴えかけ、対象者に分かりやすくなるよう工夫がみられた。

〔対象者に配慮した資料作成〕

飼育動物種や対象者の性別、年齢を考慮した資料作成がなされていた。

今後の課題

- 動物医療従事者のタバコの害に対しての意識の向上
- 『人だけでなく動物にも悪影響を及ぼす喫煙』の減少
動物の前での禁煙
- タバコの害に関する院内ポスター掲示
- 非喫煙者の吸わされない権利の確保
- 活動の継続と後輩への引継ぎ

卒業後も

動物介在禁煙推進活動を各自が実行していく



ご清聴ありがとうございました。